

# 戸田川(富田公園周辺)生物調査結果報告書

## (魚類、甲殻類、貝類)

### 1. 調査概要

調査場所: 戸田川上流部(富田公園周辺)  
 名古屋市中川区富田町大字春田大明神屋敷

調査日時: 平成25年5月18日(土) 13:00~17:30

天候など: 晴れ、気温 25℃、水温 23℃(午後 14:00)

調査方法: ①魚取り網(玉網)による捕獲  
 ②釣りによる捕獲(魚類、甲殻類)  
 ③素手による採取(貝類)  
 ④目視観察(爬虫類、両生類、哺乳類)  
 ⑤デジタルカメラによる撮影記録

参加人数: 9名(うちジュニア1名)

※なごや生物多様性センターとの合同調査

役割分担: 魚類担当:西垣、古久根、長野、本堀  
 甲殻類:西垣、古久根、本堀  
 貝類:本堀  
 鳥類担当:秋山  
 哺乳類担当:木下  
 爬虫類担当:木下

### 調査当日のタイムテーブル

13:00	戸田川春幡橋左岸下流側に集合
13:00-13:10	ベース設営、調査前の打ち合せ
13:10-16:00	生物調査
16:00-17:00	調査結果の集計、検討、情報交換
17:00-17:15	総評、記念撮影(集合写真)
17:15-17:30	後片付け、西垣座長より事務連絡
17:30	現地解散



富田公園内の様子

### ●調査ポイントの概要



(A)春幡橋下流部



(B)春幡橋上流部



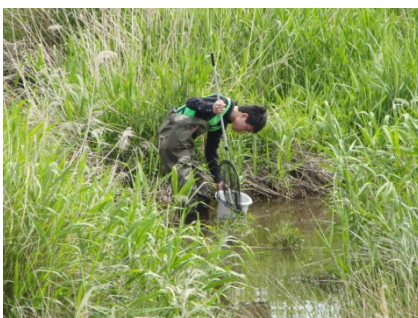
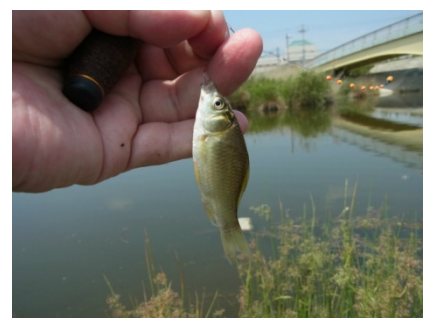
(C)服織川合流部

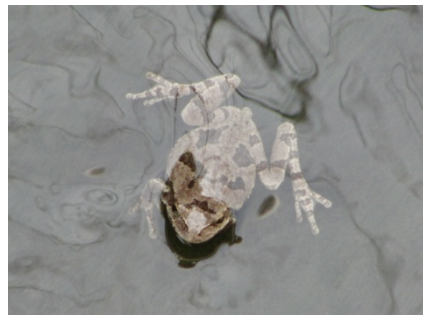


(d)水路合流部(右:千音寺方面)

★戸田川:名古屋市の西部を流れる延長9km程の日光川の一支流。日光川の流域は地下水の過剰な汲み上げによる地盤沈下が顕著であり、戸田川も自然流下が困難な状態にある。したがって、日光川との合流部に設置された戸田川排水機場においてポンプによる強制排水を行っている。今回調査を行った富田公園周辺では、護岸を近自然的な工法により造成し、ヨシなどが植栽され、生物の生息空間が造り出されている。付近住民の憩いの場として親しまれている。








## 2. 調査の様子










### 3. 調査結果

No.	写真	名称・分類	備考
魚 類			
1		<p>フナ類</p> <p><i>Carassius langsdorfii</i></p> <p>コイ目 コイ科 コイ亜科</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ギンブナとゲンゴロウブナが混獲されたが、厳密に区別する時間が無かったため、“フナ類”としてまとめて記載した。</li> <li>・釣りでも玉網でも捕獲する事ができた。</li> <li>・戸田川最上流部の富田公園付近では、毎年フナの産卵が観察されている。</li> <li>・事前調査でも産卵の様子を確認する事ができた。その際、岸際の植物の茎や浮遊する落ち葉や枝に産み付けられた卵を確認した。</li> </ul>   <p>フナの産卵の様子(平成25年4月8日、春幡橋下流)</p>  <p>産み付けられたフナの卵</p>


2	 <p>抱卵個体</p>  <p>稚ゴイ</p>	<p>コ イ</p> <p><i>Cyprinus carpio</i></p> <p>コイ目 コイ科</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戸田川最上流部の富田公園付近では、毎年コイの産卵が観察されている。</li> <li>・事前調査でも産卵の様子を確認し、また抱卵した大型の個体を釣り上げる事もできた。</li> </ul>  <p>コイの産卵の様子(平成25年4月5日、春幡橋下流)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・在来種か、外部から持ち込まれた移入種(国内移入種)か、両者の交雑体かは遺伝分析を行っていないので判断できない。</li> </ul>
3	 <p>非繁殖期</p>  <p>繁殖期の雌(上)と雄(下)</p>	<p>モ ツ ゴ</p> <p><i>Pseudorasbora parva</i></p> <p>コイ目 コイ科 モツゴ属</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本各地で見る事ができる普通種である。</li> <li>・汚濁や環境変化への適応力が強く、戸田川でも多くの個体を捕獲する事ができた。</li> <li>・繁殖期のオスは側線が消えて、ウロコの模様がはっきり表れる(左下写真)。また頭部に追星(下写真)が見られるようになる。</li> </ul>  <p>モツゴの追星</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・濃尾平野では、モツゴやカワバタモロコ、タモロコを古くからモロコ寿司や甘露煮などの食材として利用してきた。</li> </ul>  <p>モロコ寿司(モツゴが使われている)</p>

4		<p><b>ヨシノボリの仲間</b></p> <p><i>Rhinogobius sp</i></p> <p>スズキ目 ハゼ科 ハゼ亜科 ヨシノボリ属</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヨシノボリはハゼ科ヨシノボリ属に分類される魚の総称であり、同定が難しいため、今回は“ヨシノボリの仲間”と記した。</li> <li>・調査では多くのヨシノボリの仲間を捕獲する事ができた。</li> <li>・一説では、吸盤状の腹鰭を使って、岸際に生えているヨシを上るので、ヨシノボリと名付けられたと言われている。</li> </ul>
5		<p><b>ナマズ</b></p> <p><i>Silurus asotus</i></p> <p>ナマズ目 ナマズ科 ナマズ属</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東アジア全域に分布する。</li> <li>・我が国では、北海道と沖縄などの離島以外に分布している。</li> <li>・本来は西日本が自然分布域であったが、江戸事態以降に関東地方や東北地方に移入されたと考えられている。愛知県のナマズも古い時代の移入種と考えられている。</li> <li>・戸田川は名古屋市内でもナマズの多い河川として釣り人の間では有名。</li> <li>・ナマズの繁殖は水田内で行われるため、繁殖期には河川や水路を遡上する。</li> <li>・H24.4.26 に行った事前調査時に、繁殖のために戸田川本流を遡上した群れを確認した。</li> </ul>  <p>戸田川の上流部の堰に群れるナマズ</p>
6		<p><b>カダヤシ</b></p> <p><i>Gambusia affinis</i></p> <p>カダヤシ目 カダヤシ亜目 カダヤシ科 カダヤシ亜科</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北米原産の国外外来種。</li> <li>・外来生物法の特定期外生物に指定。</li> <li>・戸田川全域で捕獲することができる。</li> <li>・メダカと同じように水面を群泳している。</li> <li>・抱卵（正確には卵胎生）個体も数多く捕獲することができ、戸田川本流、周辺水路で繁殖していると思われる。</li> <li>・カワバタモロコと混泳している姿も確認。</li> </ul>


7		<p><b>ブルーギル</b>  <i>Lepomis macrochirus</i>          スズキ目          サンフィッシュ科          ブルーギル属</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北米原産の国外外来種。</li> <li>・外来生物法の特定期外生物に指定。</li> <li>・戸田川全域で捕獲することができる。</li> <li>・稚魚を含む複数の個体が捕獲された。</li> </ul>
---	--	---	---


**甲 殻 類**

1		<p><b>スジエビ</b>  <i>Palaemon paucidens</i>          エビ目(十脚目)          テナガエビ科</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本周辺に生息する淡水性のエビ。</li> <li>・小型のテナガエビとは区別しにくいですが、複眼後方の頭胸甲上にある「肝上棘」の有無で判断する。スジエビには肝上棘が無い。</li> <li>・戸田川では、全域で捕獲することができる。</li> <li>・今回の調査でも多くの個体を捕獲することができた。</li> <li>・網で捕獲できた他、極小のタナゴ針にアカムシをつけた仕掛けでも釣ることができた。</li> </ul>
---	--	---	---

2		<p><b>テナガエビ</b>  <i>Macrobrachium nipponense</i>          エビ目(十脚目)          テナガエビ科          テナガエビ属</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・淡水、汽水域に生息する大型のエビ。</li> <li>・戸田川では比較的多くの個体を釣りや網で捕獲することができる。</li> <li>・両側回遊性で、幼生は一旦降下して海や汽水域で成長してから、再び川を遡上する。</li> <li>・戸田川の個体も一旦日光川を経由して名古屋港へ降下していると思われる。</li> <li>・食味が良く、水産資源として重要である。</li> </ul>
---	---	--	---

**貝 類**

1		<p><b>ヒメタニシ</b>  <i>Sinotaia quadrata historica</i>          軟体動物門          腹足綱          タニシ科</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本州、四国、九州に分布。</li> <li>・マルタニシに比べ、汚れに強い。</li> <li>・戸田川本流や周辺の水路に多くのヒメタニシが生息していた。</li> <li>・戸田川本流では、ヨシ原の根元に多くのヒメタニシが生息していた。</li> <li>・タニシ類は、コイやナマズの好物であり、餌として利用されていると思われる。</li> </ul>
---	---	---	---

2		<p><b>サカマキガイ</b>  <i>Physa acuta</i>          軟体動物門          腹足綱          サカマキガイ科</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•北米原産の国外外来種。</li> <li>•小型であるため発見しにくいですが、群生している場合は容易に捕獲する事ができた。</li> <li>•水面に張り付いて移動する(界面張力を利用しているのか？実に不思議だ！)。</li> <li>•水処理の世界では、バイオフィルムを食べてしまい、浄化能力が低下させるので迷惑な存在である。</li> </ul>
---	--	---	---

(レポート作成) 技術士(衛生工学部門、生物工学部門)

本 堀 雷 太